



印西市議会議員

こんにちは！ ますだようこです

series2 vol.29

発行/増田葉子 2022.8.1 印西市内野2-1-6-202 TEL080-5082-0970 Fax0476-46-6809 e-mail/YFA49624@nifty.com
ホームページもご覧いただけます http://www.masuda-yoko.com

市議会6月定例会の議案と、私の一般質問を要約してご報告します。

6月定例会の議案

①条例の一部改正 5件

2012年に議会発議で制定した「自転車安心安全利用条例」に、損害賠償保険への加入義務を追加した。県条例の改正を反映させたもの。市内には44,700台の自転車があると推定され、その60%の加入を目標にするという。他、これまで市が運営してきた文化ホールに指定管理者制度を導入する「文化ホール設置管理条例」、牧の原第2学童クラブを加える「学童クラブ設置管理条例」の一部改正など。

②補正予算 1件（一般会計）

約3億円を追加する増額予算で、DX（デジタル・トランスフォーメーション）推進のための民間人材登用の支援業務、デジタル技術を活用したワンストップ窓口や市民投稿共同アプリの構築費用、子宮頸がんワクチンの接種勧奨再開で委託料の増額などが盛り込まれた。また、廃止された高花学校給食センター跡地に、もう一度3千食対応の学校給食センターを造る計画で、約21億円の建設費が「継続費」に追加された。建設前から「3千食では足りないのではないか」とささやかれるほど子ども人口が増えている。

③財産の取得 2件

役所内の業務用パソコンと消防団の小型ポンプ車を入れ替えるための取得。パソコンは5年ごとに入れ替えて、今回は273台で税込み5千381万円、消防ポンプ車は3台で税込み3千89万円。

④報告 4件

一般会計の継続費繰越計算書、繰越明許費繰越計算書、事故繰越し繰越計算書、下水道事業会計の予算繰越計算書の報告。「継続費」とは多年度にわたる事業の予算をあらかじめ

じめ確保してしまう制度で、市井橋の改修工事、原小学校、滝野中学校の校舎増築工事など5事業の工事の執行状況が報告された。また「繰越明許」は1年だけ予算を繰り越す制度で、今回報告されたのは全部で22事業。

⑤人事の同意 3件

人権擁護委員3名（再任1名、新任2名）の推薦。



議案の詳細はHPでも報告しています。

文化ホールの民営化

市役所の隣、大森にある文化ホールは、1994（平成6）年7月に「印西町文化ホール」として開館しました。その前年には人口が5万人を超えて「全国で一番人口の多い町」になりました。当時は、国の政策誘導もあって全国的に文化ホールがたくさん建設された時代で、印西町では人口に見合った規模として522席のホールを整備しました。

一昨年1月から1年半ほど完全閉館して大規模改修工事が行われ、その前後もコロナ禍で大きな催しもなかったので、新たに転入された皆さんにとっては、「文化ホールってどこ？」という感じで、「文化の拠点」とはほど遠い存在感かもしれません。

今議会では、その文化ホールの運営を民間委託するための改正が可決し、開館以来約30年間、市の職員が運営してきた文化ホールが民間運営に移行することになりそうです。

「今さら」と思いますが…

行革を進めるなかで、文化ホールの「民間活力導入」の方向性が示されたのは2006（平成18）年です。それから15年以上たって、「ようやく」なのか「今さら」なのか、なぜ今民間移行なのか解釈に迷いますが、おそらく2年後に開館が予定されている、ニュータウン中央駅前交流館内のホールが民間運営（20年契約の指定管理）なので、足並みをそろえたかったのかもしれない。

ニュータウンのホールは、稼働式300席なので、芸術ホールというよりスタジオと言ったほうがいいのかもかもしれませんが、答弁では、大森の文化ホールは芸術鑑賞用、ニュータウンのホールは市民の文化活動用という役割分担にしたいよう

議会報告会のお知らせ

6月議会の報告と、自由な意見交換の場です。
お気軽にご参加ください。

日曜日の午後です！

8月21日（日）13:30～16:30

中央駅前地域交流館2号館3階 会議室4

です。

大森の文化ホールの現状

大森の文化ホールは2千万円の事業基金をもっています。例えば、有名なソリストに公演をしてもらうにはそれなりの費用がかかり、522席のチケット料金だけで賄おうとすると、とても高額になってしまうので、市民が鑑賞しやすい金額に設定すると、どうしても赤字になります。そうした赤字分を基金から支出し運営されてきました。開館当初、基金は3千万円でしたが、実績に見合った額にせよと議会が要請して2004(平成16)年に1千万円減額されました。

自主事業として年に10回ほどの興業をうっていますが、これまで黒字になった興行はほぼゼロと思われる。コロナ禍前は年に1千万円から1千300万円を基金から支出していました。

民間に何を求めるのか

民間移行でこの基金は廃止され、その分を委託料として民間管理者に支払うこととなります。民間に移行する目的は「芸術性を高める」ことが目的だと言っている。問題は、この基金に代わる委託費がいくらになるかで、民間管理者がどんな興業をうち、どんな事業をしてくれるのかがかかっていると思います。この部分を、「実績に応じた経費」に削減すると、芸術性を高めるといのは絵に描いた餅で、民間移行は失敗することになるでしょう。

全国の文化ホールの管理の状況は、公運営が50.8%、民運営が49.2%となっています(「公立文化施設の管理運営状



大森の文化ホール外観
(印西市HPから)

況に関する調査報告書」一般財団法人 地域創造、2018年)が、民運営の約半分は公が出資する公益財団(例えば〇〇市芸術振興財団など)となっていて、完全に民間なのは22%くらいです。印西市は公益財団をもっていないので、管理者候補は完全な民間企業になると思われます。

公がいいのか民がいいのか

個人的には、そもそも文化ホールは民間運営に適している施設だと思っています。異動のある行政職員がすべて文化や芸術に専門性があるわけではありませんし、民間ならではのアイデアや情報、人脈など期待できることも多くあります。要は、選定される管理者の質で大きく左右されます。

市内の他の施設では、民間委託によって市民サービスがよくなったところもあれば、停滞気味のところもあります。プレゼンテーションで上手に語られた理念がぜんぜん現場に下りてこない事業者もあると聞きます。文化ホールが「文化の拠点」となるような運営をしてくれる民間事業者をどのように選ぶかが重要です。選定の場合、文化芸術がわからない人だけにならないように、長年、市内で文化活動をしてきた市民を入れるなどの工夫が必要です。

私の一般質問

バスルートはいつ見直されるのか



一般質問の中継録画もご覧ください。

高齢化がすすむ中で、バスルートの要望は様々なものが寄せられています。ここ数年は「地域公共交通計画に位置づけ対応していく」と先送りされてきました。その計画も出来上がって1年が経ちます。そろそろ具体的に見える形で示されてもいいと思いますが、どうなっているのでしょうか。

私の質問

担当部長の答弁

期待している市民は、いつバスルートが見直されるのかと思っている。現在はどんな検討をしているのか？



喫緊の課題として、ふれあいバスの遅延に対する苦情が多く寄せられていることから、遅延対策を優先し、運行会社とダイヤ改正案などを検討している。

遅延対策を優先した路線だと、要望の多い大型店舗近辺をルートに組み込むことはそもそも難しくなる。ルートの検討は担当課内部で案を出しあっているのか？



ルートの検討は、担当課内部での検討と運行会社での検討を持ち寄りながら協議をしている。

思い切って専門性のある民間に任せ、スピード感をもってほしい。内部で「ああでもない、こうでもない」と検討していても一年はあっという間だ。今年度は何をやるのか？



今年度は遅延対策に結果を出したい。